



国指定重要無形民俗文化財 **徳山の盆踊**

本町では唯一、国から重要無形民俗文化財として指定されている「徳山の盆踊」。
 今年は天候にも恵まれ、さらに8月15日が土曜日だったこともあり、多くの観光客をはじめ、帰省中の若者や家族連れでにぎわいました。

毎年、「徳山の盆踊」を楽しみに来町している常葉大学・生涯学習研究会「たぬきの仲間たち」の皆さんも総勢40人訪れました。同大3年生で事業統括の滝波紳也さんは「地域の伝統文化として絶やさずに守り抜く伝承者の皆さんの気概と力強く優雅な舞に感動しました」と興奮していました。



[ヒーヤイ]



[鹿ん舞]



[狂言]



「たぬきの仲間たち」の皆さん

大きな掛け声(道行き)

優雅な舞を披露(ヒーヤイ)

団員数減少に伴い解散

旧本川根町青年団が活発に活動していたのは約15年前。納涼盆踊り大会やだるま配りなどを主な事業として、まちづくりに参加していました。その後、団員の人数減少に伴い、活動も縮小していき、10年前の合併を期に解散をしました。

復活のきっかけ

平成19年から千頭駅前で、盆踊りを手掛けていた千頭駅前ミニ盆踊り実行委員会から「若い衆が集まってやってくれないか」と声が掛かったのがきっかけ。風間団長は、自分たちが10代の頃、青年団が主催して開催していた「納涼盆踊り大会」が頭に浮かび、「それならば青年団が復活すれば…」と思ったと話します。青年団復活のため、町内にいる同世代の若者に声をかけたところ、口づてに30歳代を中心にして7人が集まりました。

まちを盛り上げよう

「若者不在」が叫ばれて久しい中、「まちを盛り上げたい」という思いを共にする仲間たちが集まりました。まちを盛り上げるために、自分たちに何ができる

**本川根青年団
が
復活**

まちを盛り上げたい

できることって何だ

盆踊りが結ぶ縁

のか。「まずは自分たちが楽しまなければ、来てくれるお客さんを楽しませることはできない」という視点から、盆踊り大会に向け、数回の会議を重ね、出店者との打ち合わせなど、細部にわたり準備を進めてきました。

盆踊り当日。音戯の郷付近に設けられたトーマスフェアの物販ゾーンを間借りした会場は、午後7時を過ぎると、たくさん家族連れで大にぎわい。リフトアップされた軽トラをやぐらに見立て、その周りを浴衣姿の若者や家族連れが輪になって踊りました。「久しぶり！いつ帰ってきたの？」「大きくなったね〜！」など、久々の再会を喜ぶ声があちらこちらで聞かれ、帰省中の若者や家族連れにとっては再会を楽しむ場となりました。

自分たちの未来のため

今回取り上げた本川根青年団の復活。小さな出来事かもしれませんが、しかし、生まれ育ったまちのため、自分たちでできることを探し、行動していく。この積み重ねこそが、まち全体の熱量を上げ、未来を切り開いていくことにつながっていきます。



1



2



3



4



5



6



7



8

【写真の説明】

- 1_ 復活した青年団の一部団員(写真中央⊕が団長の風間光一郎さん)
- 2・3_ 軽トラをやぐらに見立て輪になって踊った
- 4_ 子どもたちも輪踊りに興味深そう
- 5_ コンテンポラリー・ダンスも披露
- 6_ バンド演奏で大いに盛り上がる
- 7_ 浴衣姿の若者が多く集まった
- 8_ バンド演奏が盆踊りに花を添えた